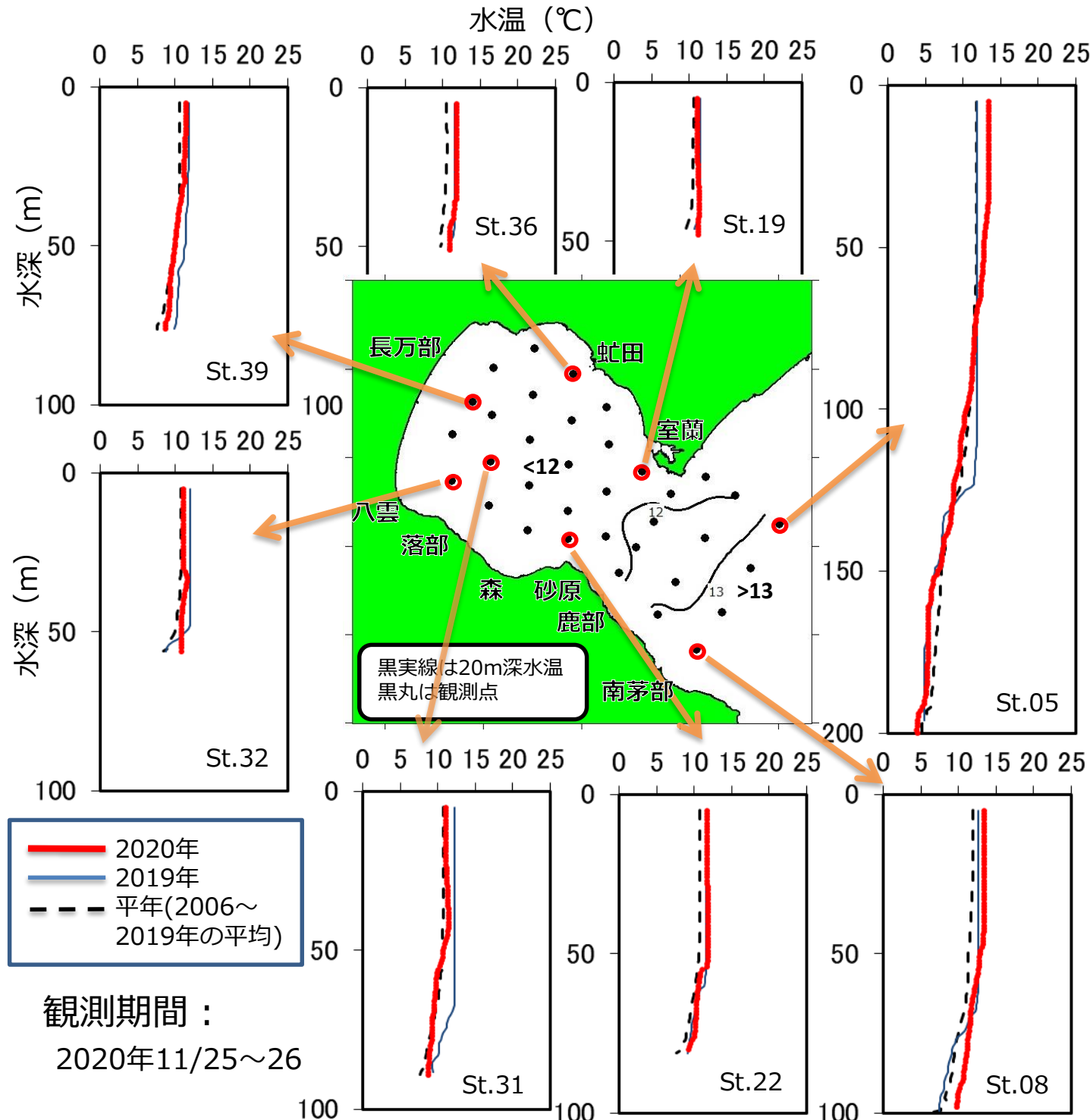


2020年11月25～26日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素の観測結果をお知らせします。
 (函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

噴火湾内および湾外の水温は、気温の低下に伴う鉛直混合により、海面から深度50m前後までほぼ均一な水温になっています。50m以浅の水温は、湾内では11℃台で平年並みか1℃高く、湾外では13℃前後で平年に比べ1～2℃高くなっています。



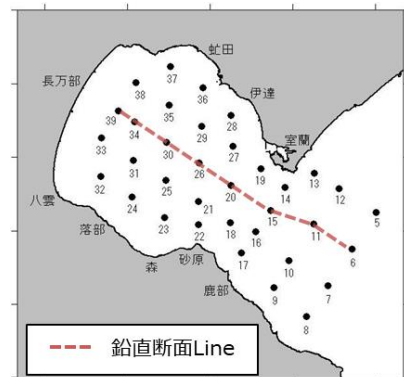
観測期間：
 2020年11/25～26

図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布と深度20mにおける水温の水平分布

【水温，塩分，密度，溶存酸素の鉛直断面分布】

11月の鉛直断面は津軽暖流水（塩分33.6以上）に広く覆われ，9月に深度20m以浅に見られた夏季噴火湾表層水（水温20℃以上，塩分33.0以下）は消滅しました。

11月は気温の低下に伴い海表面が冷却されて鉛直方向に混合され，その結果断面の大部分は水温11~13℃，塩分33.9前後，溶存酸素6.0ml/L前後の均一な水に覆われています。一方，湾内の下層には，9月に引き続き溶存酸素4.0ml/L以下の低酸素の水塊が分布しています。今後，さらなる気温の低下により鉛直混合が進むと，噴火湾内は海面から海底までほぼ均一な水塊になり，底層の低酸素状態は解消されると考えられます。



9月の鉛直断面

11月の鉛直断面

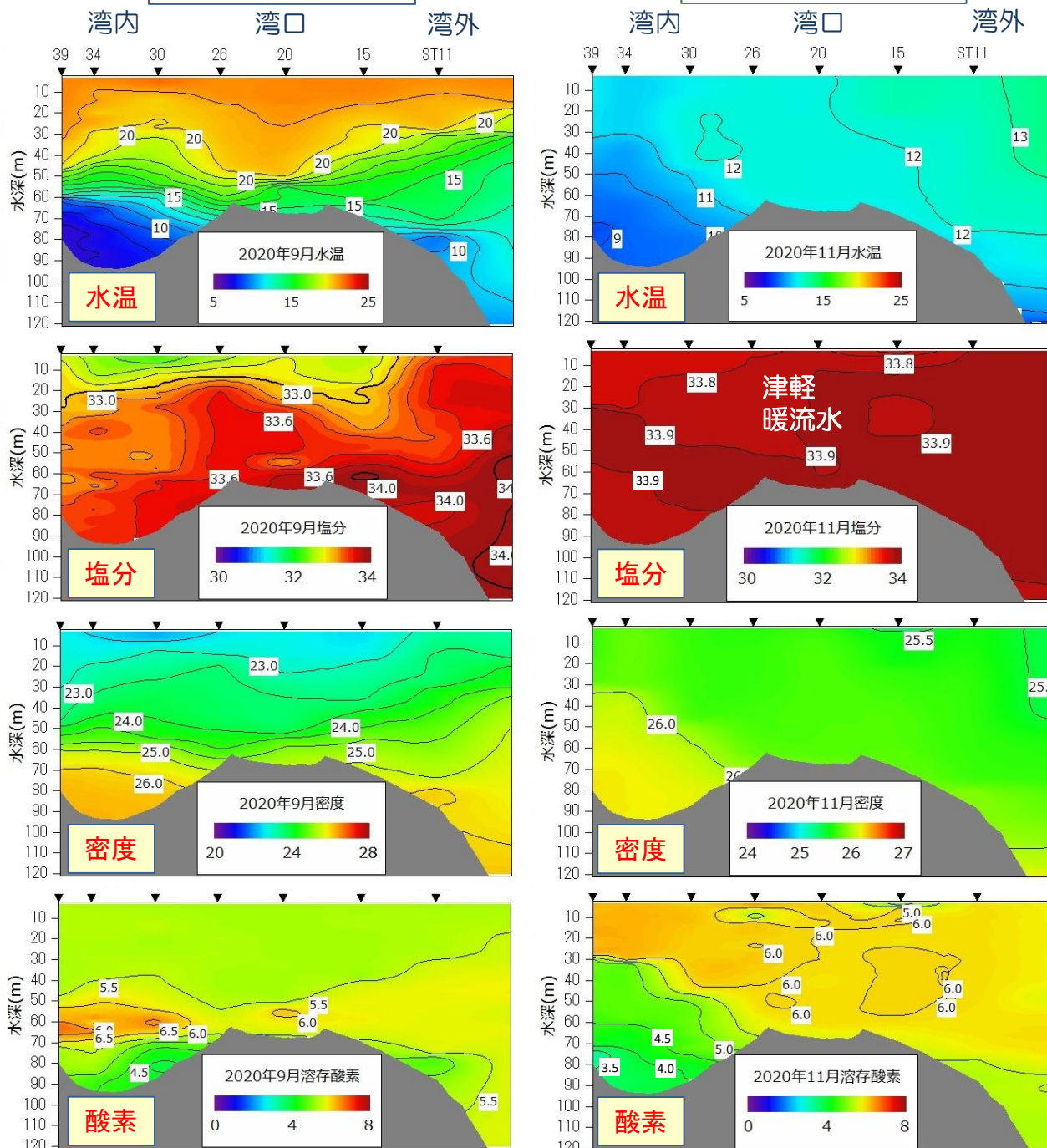


図2 水温・塩分・密度・溶存酸素の鉛直断面図 (左：9月，右：11月)
鉛直断面の位置は右上図の赤破線を参照 上部の▼は観測点